

ポンペの解剖学講義録と佐藤尚中の組織学研究

相川 忠臣¹⁾, ハルメン ボイケルス²⁾, 酒井 シヅ³⁾

¹⁾ 日本赤十字社長崎原爆病院, ²⁾ ライデン大学・長崎大学多文化社会学部, ³⁾ 順天堂大学医学部

ポンペのオランダ語解剖学講義ノート(順天堂大学医史学教室, 故小川鼎三教授蔵)の原典はBock, C. E. 著作(Poll, P. H. による蘭訳)の人体解剖学書Handboek der ontleedkunde van den mensch (Amsterdam, 1840-41, 3巻)であることは既に報告した。ポンペのノートは1. Ontleedkunde (解剖学とは), 2. Over de beenderen (骨), 3. Leer der banden (靭帯), 4. Leer der spieren (筋), 5. Leer der slagaderen (脈管), 6. Leer van het zenuwstelsel (神経), 7. Leer der ingewanden (内臓), 8. Zintuigen (感覚器)からなる。ポンペはノートとBock, C. E. のドイツ語版解剖図譜Hand-atlas der Anatomie des Menschen (Leipzig, 1844)を用いて主に肉眼解剖学を教えた。彼は1台の顕微鏡を用いて, 組織学も, 彼の言葉によればhistologieとanatomieを結びつけて教えた。しかしポンペのノートには原典にある細胞組織, 膜, 腺の記載は無い。従って組織学の記載は少ない。彼の医務報告に使用したとあるWeber, M. I. のAnatomischer Atlasは種々の器官の組織図を含む。この図譜からその内容を想像するしかない。

今回佐藤尚中が佐倉順天堂で講義した『朋百氏解剖書骨骸篇』(国立国会図書館蔵, 舜海佐藤先生譯述, 朋百氏解剖書巻1. 内田 正図書記)をポンペのノートと比較した。内田 正の名は順天堂門人録にある。骨骸篇はポンペのノートにある1. 解剖学とは, 2. 骨, 3. 靭帯の内容である。『解体新書』から『近世解剖学』に至る解剖学語彙の変遷を調査した大鳥蘭三郎の論文には, 出版されなかったポンペの解剖学講義録は含まれていない。その骨の語彙の変遷に佐藤尚中の用いた骨の語彙を加えて比較検討したい。2. 骨には佐藤の組織学の豊富な知識が挿入されている。ポンペのノートの骨の成分はBerzelius, J. J. によるもので原典のボックのHandboekと同じである。しかし佐藤の骨の成分とその説明はLehmann, C. G. 著Handboek der physiologische scheikunde (ドイツ語原典のEgeling, L. J. による蘭訳, 1856)からの引用であろう。さらに3つの骨組織図と詳しい説明が加えられている。

早稲田大学図書館蔵の「済衆録」は佐藤尚中が組織学を熱心に研究していたことを証明する重要な写本である。巻1-4は人體篇, 組織論であり, 主な項目を列挙すると, 人体成分論, 房, 結組織, 弾力性組織, 脂織, 色素, 角織, エピテリウム, 筋織, 腱織, 繊維織, 水膜, 血脈, 水脈, 乳糜脈, 血, 淋巴, 乳糜, 神経, 軟骨, 硬骨, 粘膜, 腺である。巻5は衆骨靭帯論中の頭骨である。巻末に大博士佐藤氏所譯を, 大学東校で少助教源(細川)廣世が明治三年に書写したと書かれている。『済衆録』とは一般的には彼が晩年に蘭訳から重訳して出版したFelix von Niemeyerの臓器別内科学書を指す。ドイツの代表的内科書の翻訳であり, 広く読まれた。しかし済衆は佐藤の号で, 「済衆録」とは本来は佐藤のメモ帳であったのであろう。写本「済衆録」の内容はHyrtl, J. のドイツ語原典Lehrbuch der Anatomie des menschenをPeelen, P. が蘭訳したLeerboek van de ontleedkunde van den mensch (蘭訳初版1850. 二版1857)の一章: 組織論と一般解剖学, 二章: 衆骨靭帯論と項目の順序と内容が一致する。人体成分論の中にMulderの蛋白についての記載があるが, 初版にはなく, その記載のある二版が原典である。ヒルトル解剖書の蘭訳本は佐倉順天堂にあり, 佐藤は講義に用いていた。組織学語彙には細胞を房, 結合組織を結組織, 漿膜を水膜, リンパ管を水脈のように現代と異なるものがある。ポンペがノートには入れなかった組織学と組織化学の内容を, ヒルトルとレーマンの教科書から翻訳した佐藤尚中は, 佐倉順天堂におけるポンペの講義録を使用した解剖学講義で組織学的内容を補い, 大学東校でも組織学が教えらるるように配慮していた。